

子ども同士の関わりを通して遊びを広げる
～電車ごっこの取り組みを通して～



社会福祉法人 愛護会

たんぽぽ保育園

保育士 及川 千春

1 研究主題

子ども同士の関わりを通して遊びを広げる
～電車ごっこの取り組みを通して～

2 主題設定の理由

4歳児は男児15名、女児9名、計24名のクラスである。一人ひとりを見ると3歳児のころよりも友達と一緒に遊ぶ姿が見られるようになってきたが、遊びの中で自分の思い通りにいかなくなるとすぐに怒ったり手が出たり、遊べずに保育室の中を走り回っている子などの姿が見られた。保育所保育指針には、おおむね4歳では「想像力の広がりにより、現実に体験したことと絵本などの想像の世界で見聞きしたことを重ね合わせ、その中でイメージを膨らませて物語を自分なりに作ったりと子どもは様々なイメージを広げ、友達と共有しながら想像の世界の中でごっこ遊びに没頭して遊ぶことを楽しむ。」とある。ごっこ遊びは様々な人や物への理解を深め、予想や意図、期待を持って行動するなど社会性を育むものであり、子どもが成長していくうえでとても大切なことであることから、ごっこ遊びを通して友達と一緒にいることの喜びや遊ぶ楽しさを感じさせたいと考え、本主題を設定した。

3 研究のねらい

経験したことを遊びに取り入れながらごっこ遊びを広げ、友達との関わりを深める保育を考える。

4 研究の仮説

- ・絵本や体験などの環境を整え、体験したことを遊びに取り入れることによって友達とイメージを共有し、ごっこ遊びへと発展できるのではないかと。
- ・ごっこ遊びを通して、自分の思いを言葉で伝え合うことでお互いの存在に気づき、人との関わりができ、遊びが広がっていくのではないかと。

5 研究の内容

- ・クラス集団や子ども一人ひとりの姿を把握する。
- ・ごっこ遊びが広がるための環境づくりの工夫と援助のあり方について探っていく。

6 研究の方法

- ・子どもの姿を把握する。
- ・保育実践を通して、保育の工夫と援助のあり方を探る。

7 研究の実践

(1) 子どもの姿を捉え、電車ごっこ遊びへ

3歳児の時は「おおかみと七ひきのこやぎ」の絵本から、おおかみとこやぎのお面を作って追いかけてっこをしたり、ダンボールで手作りの家を作って、おおかみとこやぎのお家ごっこをして遊んだ。友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じながら遊ぶ姿が見られた反面、興味を持たず、テレビのヒーローになりきって戦いごっこばかりして遊ぶ子も見られた。その中でA男は、遊びの中で自分の思いを通したい、否定的な言葉を言われると自分の感情を抑えられないなどの困り感が見られた。

4歳児になり、散歩にへ行った時、長いつるを見つけた子ども達は電車に見立ててつながったり、田んぼのあぜ道を線路に見立て「でんしゃがとおりま〜す！」と歩くことを楽しんでいた。

(2) 保育実践

① <運転手をやりたい> 4月6日

子どもの姿	保育者の援助や気付き
<p>・保育者が「今日は散歩に行こうね」と声をかけると「でんしゃにのっていきたい」と、子ども達から声があがる。</p> <p><u>A男「Aがうんてんしゅする」</u></p> <p><u>N子「きのうもA男くんやったよ。ずるい！」</u></p> <p><u>A男「ずるくない！だってやりたいの！」</u></p> <p>と、A男とN子が言い合いをし、A男は怒って泣いてしまった。</p> <p><u>保「A男くんは、運転手がしたかったんだよね。もしかしたら、N子ちゃんもやりたかったのかもしれないね」</u></p> <p>・保育者に思いを受けとめてもらったことでA男の気持ちも落ち着く。</p> <p>保「A男くんもN子ちゃんも、運転手をやりたかったんだよね。どうしたら良いかな？」</p> <p>K男「こうたいですればいいんだよ」</p> <p>・K男の言葉に、普段の遊びで鬼ごっこの鬼</p>	<p>・子ども達の「でんしゃにのっていきたい」という思いを受け入れて進めた。</p> <p>・「うんてんしゅをしたいからやりたい」と言ったのに、どうして「ずるい」という否定的な言葉で言うの？と、A男は思ったのかもしれない。A男とN子の運転手をやりたい気持ちを受け入れながら、相手の思いを伝えたことで2人とも落ち着いた。</p>

<p>を決める時につかっている“鬼決め”で運転手を決めることにした。しかし、A男は運転手をやりたい為、“自分に当たらないかもしれない”と思うと「だめ！もういっかい！」と何度もやり直しをする。</p> <p>N子「もういっかいばかりいってずるい！」</p> <p>A男「なんでよ！Aがやりたいの！」</p> <p>K男「こんどは、じゃんけんにすればいいんじゃない？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A男とN子が再び、トラブルになる。その様子を見てK男が「じゃんけんすればいいよ」と話したことでA男とN子は納得し、ジャンケンで決めることになった。 ・その様子を見ていた他の子ども達も「うんてんしゅやりたい」と輪に入ってくる。A男とN子も入り、5人でジャンケンをするとH子が勝ち、H子が運転手になって散歩へ出発することになった。A男は慚然とした表情をしていたので、 <p>保「<u>本当は、運転手をやりたかったね</u>」</p> <p>A男「<u>うん。でも、じゃんけんでまけた。こんど、じゃんけんがんばる。だってきょうは、H子ちゃんがうんてんしゅだもんね</u>」と、自分の気持ちを言葉で話し、気持ちを切り替えて散歩へ出かけた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・すぐに止めに入らず、子ども達が自分でどうしたら良いか考えられるように見守り、様子を見たことで、子ども達だけで解決をすることが出来た。 ・A男のやりたかった気持ちを受けとめ、言葉にしたことで安心したようだ。話す声は機嫌が悪かったが、自分の気持ちを言葉で話せたことは良かった。
--	--

<考察>

- ・いつもA男が運転手役になっていたがN子の要求をきっかけに、他の友達も運転手をやりたいことに気付かせることが出来た。本当はやりたい気持ちがあるが、我慢をして譲ってあげることが出来たことを帰りの会で褒めたことでその後も、譲ってあげる姿が見られるようになった。

② <園外保育> ～金ヶ崎駅の見学～ 5月11日

子どもの姿	保育者の援助や気付き
<ul style="list-style-type: none"> ・金ヶ崎駅で実際にホームに行くと「これがせんろだ」「せんろにおっきないしがあるよ」「しんごうきがあるね」と、興味津々で見ている。実際に電車がホームに来ると「わあ～！」と歓声をあげて大喜び。「ライトがついてるよ」「しゃしょうさんものってるよ」と気付きながら、喜んで見る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出発前に駅にはどんな物があるかクラスで話したり、“せんろはつづくよ”の絵本を読んで、興味を持たせていく。

<考察>

- ・事前に絵本を見て駅の仕事について学んだり、歌をうたったりしたことで、どの子ども達も興味を持って見る事が出来た。実際に見たことを、今後の遊びに取り入れていきたい。

③ <見つけた駅を地図に描こう> 5月15日

子どもの姿	保育者の援助や気付き
<ul style="list-style-type: none"> ・散歩に行った時、木がたくさん生えているところを歩いていると、C男「とんねるみたいだね」I男「ここ、とんねるえきにしたら？」と、話したことがきっかけで駅探しが始まる。 Y子「ここは、おはながいっぱいさいるからおはなえきにしようよ」 M子「ここは、あったかいから、おひさまえきだね」 と、様々な駅を見つける。 ・園に帰ってきてから模造紙に、見つけた駅を地図で描く。保育者が、出発地点のたんぼぼ駅を描くと「こっちにいくとむしえきだね」「それじゃあ、こっちはとんねるえきだ」「とんねるえきは、きがいっぱいあるから、きもかこう」と一つひとつ思い出しながら描く。「ここに、かわみtainamiずがながれてたよね」と、駅だけではなく、家や水路など周りにも気付いて描く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本のように駅を見つけるともっと電車ごっこが盛り上がるのではないかと思い、見つけるきっかけがつけられるように、散歩コースを選ぶ。 ・C男が話した言葉を受け入れ「ここはお花が咲いているね」などと駅を見つけられるような、声がけをする。 ・地図を描く前に、どんな駅を見つけたかクラスで発表し合うことで意識を持たせた。 ・駅だけではなく、木や家があったことに気付けるように、周りの様子を思い浮かべることが出来るような声をかける。

<考察>

- ・トンネル駅、虫駅、グランド駅、おひさま駅、お花駅、たにし駅、田んぼ駅、金ヶ崎駅と、全部で8個の駅を見つけた。駅探しをしたことで、保育園の周りには何があるか気付くことが出来た。
- ・子ども達から「ちずにかいたえきのところを、ぜんぶあるきたいね」「ごーるはかねがさきえきだね」という声があった。

④ <みんなで電車を作りたい> 6月5日

園外保育で金ヶ崎駅に行った後から、電車ごっこをして遊ぶ姿が多く見られるようになった。

子どもの姿	保育者の援助や気付き
<p>・夕方、なかよし組保育の時間にA男が新聞紙をつなげて遊んでいた。</p> <p>保「何を作っているの？」</p> <p>A男「でんしゃつくってるの。Aがうんてんしゅなんだよ」</p> <p>保「かっこいい電車だね」</p> <p>I男「A男くん、なにしてるの？」</p> <p>A男「でんしゃつくってるの」</p> <p>I男「ぼくもつくりたい」</p> <p>A男「だめ！」</p> <p>I男「なんで？ぼくだってつくりたい」</p> <p>A男「だめ！Aがさきにつくってたの」</p> <p>保「I男くんも作りたいんだって。どうしてI男くんは作ってだめなの？」</p> <p>A男「だって、Aがさきにつくってたから」</p>	<p>・ A男は、自分が先に考えて作った電車だったことから、友達に真似をされることが嫌だったのではないか。</p> <p>・ A男の気持ちを受け入れながら、I男も遊びたかったことを話すが、なかなか納得しなかった。</p>
<p>・ 次の日、朝の会でA男とI男の名前は言わずに昨日の夕方にあった出来事を話すと、</p> <p>N子「でんしゃをつくれればいいよ」</p> <p>保「良い考えだね。みんなはどうかな？」</p> <p>T男「いいとおもうよ。でんしゃをつくれればけんかしないよ」</p>	<p>・ 保育者が昨日のことを話している時、I男は自分のことだと分かった様子で、保育者の顔をじっと見ていた。A男は、下を向いたり落ち着かない様子だったが、話は聞いていた。</p>

保「どんな電車が良いかな？」

R子「みんながのれるでんしゃがいいね」

I男「いいね！ゆりぐみのでんしゃをつくりたい」

O男「ゆりぐみのでんしゃをつくれば、みんなであそべるよね」

保「他のみんなは、どう思う？」

A男「いいね！つくったら、こうたいしてあそべばいいんじゃない？」

- ・この話し合いにより、ゆり組だけの電車を作ることに決まった。
- ・さらに次の日、どんな電車にするか話し合うと、赤とオレンジ色の2台の電車を作ることになった。2グループに分かれ、ダンボールに色画用紙を貼っていく。A男は、とてもはりきっていて、A男「ここ、だんぼーるがみえるから、もっとはったほうがいいよね」「H男くん、がようしないの？」Aとはんぶんこしようと、色画用紙がなくなった友達を見つけると、半分に分けて使う姿が見られた。完成すると「のってあそびたい」という子ども達の声があり、交替で乗って遊ぶ。A男「つぎ、〇〇ちゃんだよ」と貸したり、自分の順番が来るまで待つことが出来た。

・友達の考えを聞いているうちに“交替して遊ぶ”と、気付くことが出来て良かった。

・どのように電車を作ったら良いのか、クラスで話し合うことにした。

・子ども達なりに工夫して考えながら作っている時は、見守る。

・「どんな電車になるかな」「完成したら乗って遊ぼうね」と声をかけ、電車作りに期待を持たせていく。

・A男が楽しく満足していることで、友達と半分にしようとする意識が芽生えたようだ。

・A男が、はりきって作る姿がとても印象的だった。完成した電車に乗って遊んでいる時、今までは自分だけ使いたい気持ちが強かったが、保育者が声をかけなくても自分からかしてあげる姿が見られた。

<考察>

- ・電車作りでは、話し合いをしながら進めたことで自分の思いや考えを話したり、友達の思いも聞こうとする姿が見られるようになった。
- ・A男は乗り物や製作が好きなこともある為、新しい電車を作ることに興味を持ってはりきり、満足したことで友達と画用紙を分けて使ったり、電車を貸してあげる姿が見られ、友達との関わりが出来た。

⑤ <ゆり組駅を作ろう> 10月～11月

みんなで作った手作りの電車で中心活動の時だけではなく、朝やなかよし組の時にも遊ぶ姿が見られるようになった。「でんしゃしゅっぱつ」という絵本を読み聞かせしたことで、運転手役とお客さん役に分かれ、役割りを決めて遊んでいる。

子どもの姿	保育者の援助や気付き
<p>・朝の遊びの時、室内で電車ごっこを楽しんでいると、K男が広告紙を保育者に持ってきた。K男「きっぷにしてもいい？」保「いいよ」と保育者が返事をすると、広告紙を切って作り始める。その様子を見ていた他の子ども達も真似をして作る。</p> <p>N子「きっぷにえをかこうかな」</p> <p>R子「Rは、おはなをかこうかな。おはなえきにするの」と、みんなで見つけた駅の絵を描いて作る。作り終わると手作りの電車に乗り、電車ごっこが始まる。</p> <p>Y男「どこがきっぷやさんなの？」</p> <p>K男「ここだよ」</p> <p>保「どこがきっぷ屋さんか、分からないみたいだね」</p> <p>K男「かんばんがほしいね」</p> <p>A男「このかみに、きっぷやさんってかいてちょうだい」</p> <p>と、A男が紙とペンを持ってくる。保育者が書いてあげるとA男がテーブルに貼り、Y男と一緒に切符を売り始める。</p> <p>A男「きっぷうるところに、いすもおこうよ」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・K男が考えたことを受け入れペンやクレヨンなどを用意する。 ・遊んでいるうちに「かんばん」などと、子ども達が自分で発想しながら遊び始めたので、見守りながら進める。 ・子ども達の様子を見ながら、遊びが盛り上がるように必要な材料を用意する。

<p>「のるひとがまってる、いすもあるといよね」と、椅子を置く。その様子を見ていた他の子ども達も一緒に遊び始める。</p> <p>I男「えきのかんばんもほしいよね」 K男「そうだね！」 O男「この、かみをきってつくる？」 I男「おっきいほうがいいから、このままろうかにはろうよ」 K男「せんせい、ここにゆりぐみえきってかいてちょうだい」</p> <p>・保育者が書いてあげると廊下に貼り、お客さん役になった子は看板のところで待ち、電車が来ると乗って遊ぶ。</p>	<p>・A男が椅子を置いたことにより、他の子ども達も遊びに入ってきた。A男が様々なアイデアを出すので、一緒に遊んでいる子ども達もアイデアが次々と出てきたようである。</p>
---	--

<考察>

・絵本を見たことや地図を描いたこと、園外保育の時に金ヶ崎駅で見た、駅名を表示してある看板のことを思い出しながら遊びに取り入れていた。A男が様々なアイデアを出すことで友達も促され、ゆり組駅をつくるという遊びに発展させることが出来た。

⑥ <うめ組（3歳児）との交流> ～一緒に電車に乗ろう～ 1月20日

電車に乗って廊下を歩いていると、うめ組の子ども達が「なにやってるの？」と、ゆり組の子ども達に声をかけてきた。

子どもの姿	保育者の援助や気付き
<p>・「でんしゃごっこだよ」と、教えてあげる子ども達。</p> <p>保「もしかしたら、うめ組さんも乗りたいのかな？」</p> <p>A男「いいよ。うめぐみさんものるから、うめぐみえきっていうかんばんがほしいね」</p> <p>K男「きっぷ、もうすこしおおくしないと」</p> <p>A男「Aがえきのひとやる」</p> <p>I男「うんでんしゅやりたい」</p> <p>R男「Rはしゃしょうがいい」と、それぞれ役を決めて電車ごっこが始まる。</p>	<p>・うめ組が声をかけてきたことをきっかけに、異年齢交流が出来るのではないかと思い、声をかけてみた。</p> <p>・小さい子達があこがれを持って自分達の遊びを見たことが嬉しいという気持ちが分かった。</p>

<p>A男「うめぐみえきにつきました。どうぞの ってくださ〜い」 うめ組「はーい！」 と、喜んで乗ってくる。<u>運転手のA男は、歩くスピードをゆっくりにしたりと、うめ組の子達のことを気にかけていた。</u> ・ゆり組駅に到着すると、A男が「ゆりさんであそんでもいいよ」と、うめ組に声をかけた。部屋にいた他の子ども達は「なにしてあそぶ？」と聞き、優しく声をかけながら一緒に絵描きをしたり、折り紙で遊ぶ。 ・遊んだ後、「たのしかったね」「こんどはきりんぐみさんも、のせてあげようよ」と、次も遊ぶことを楽しみにしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小さい子達に合わせてスピードをおさえたりして、いつもと違った姿が見られた。 ・子ども達の楽しかったという気持ちを共感し、次回も楽しんで遊べるようにする。
--	--

<考察>

- ・ A男は、同年齢の友達には自分の思いを強く通すが、自分より年下の子と遊んだ時は、優しく声をかけてあげるなど優しく接する姿が見られ、小さい子達との交流を通して優しい気持ちが芽生えてきた。
- ・ うめ組に喜んでもらえて嬉しいという気持ちが、子ども達から伝わってきたので、異年齢交流の良さを改めて感じた。この気持ちを大切にしながら、お店屋さんごっこへとつなげていきたい。

⑦<おみせやさんごっこ> ～電車やさん～ 2月20日

園内のお店屋さんごっこで何をするか話し合うと、電車やさんをする事に決まった。

どのように進めていくか話し合うと、A男が休日を利して家族で新幹線に乗り、出掛けたことの経験からA男からたくさんのアイデアが出た。

子どもの姿	保育者の援助や気付き
<p>A男「えきには、おみせもあるんだよ。でんしゃにのりながら、おべんとうもたべるんだよ」 S子「おべんとうつくりたい！」 A男「あと、でんしゃがくると、マイクをもってはなすひともいるよ」 ・話し合った結果、駅弁を売る人、電車の運転手、車掌、駅の人をそれぞれ決めて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に新幹線に乗ったA男にみんなで質問をすることで、駅にはどんな物があるか、どんな人がいるか、共通理解が出来るようにする。 ・同じ子ばかりではなく、全員が話せるように「～ちゃんは

<p>することになった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 駅弁作りでは、小さい子達も買うことを知ったA男が「<u>まちがって、くちにいれたらたいへんだから、ふたがあかないようにテープでとめない</u>と」と、言ってテープを貼る姿を見た他の子ども達も「そうだね」と、気付いてテープを貼る。 <p>～当日～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 駅弁売りのH子とR男は、はりきって「いらっしゃいませ～！」と、声をかけている。小さい子が迷っていると「これにする？」と、選んであげていた。 ・ 運転手や車掌役の子達は、歩くスピードをゆっくりにしたりと、優しく接してあげる姿が見られた。 ・ A男は異年齢でグループを組んで買い物をする時、一緒のグループになった3歳児のA子が不安になり泣いてしまった。本当は、遊園地やさんでジェットコースターをやりたかったが、A子が「やりたくない」と言った為、A男は我慢をした。その後も、不安そうなA子を気遣いながら手をつないで、お店を回った。 	<p>どうかな？」と、声をかけていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A男が小さい子のことを考えてあげたことが嬉しく、みんなの前で褒めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども達と一緒に準備をしながら、電車ごっこへの期待を持たせていく。 ・ 小さい子へ、優しく接している姿を褒める。 <ul style="list-style-type: none"> ・ A男は小さい子の為に我慢をし、A子の気持ちを汲み取って優しく接したことや、我慢をしたことを褒め、成長を感じた。
--	--

<考察>

- ・ 電車やさんごっこへ向けて駅弁作りや電車作りなど、一人ひとりがはりきって作り、準備をすることが出来た。お店屋さんごっこの前にうめ組（3歳児）と遊んだことで、お店屋さんごっこでも小さいクラスと喜んで関わる姿が見られた。

8 研究の結果と考察

- ・ 散歩へ行った時に長いつるを見つけて電車に見立てて、遊び始めたことをきっかけに、電車ごっこへとつなげたことで、クラスのみんなが共通のイメージを持って遊ぶ姿が見られるようになってきた。
- ・ 実際に金ヶ崎駅に行って見たことや、子どもの興味に応じて絵本を読んだことで電車作りをしたり、駅を見つれたり遊びを発展させていくことが出来

た。

- 電車ごっこをすすめていく中で、クラスで話し合ったり、トラブルが起きた時もその都度、話し合いをしたことで自分だけではなく、友達の思いにも気付くことが出来た。
- A男の良かった姿をA男だけではなくその都度、クラスの子ども達にも良かった姿を話し、友達から褒めてもらったことで自分の思いばかりではなく、少しずつだが、友達の思いを受け入れることが出来るようになってきたのではないかと感じた。
- 友達と関わる力を育てるためには、集団遊びや異年齢交流を通して友だちと一緒に遊び、楽しかったという満足感を味わうことが大切であると感じた。

9 今後の課題

- お店屋さんごっこなどの異年齢交流を通して「自分たちは、小さい子よりも年上である」「お世話をすると喜んでもらえる」「役に立って嬉しい」という気持ちも育ってきているので、今後も交流しながら、その気持ちを育てていきたい。
- 一人ひとりの思いや言葉を汲み取りながら、友達と関わる楽しさをこれからも育てていきたい。
- ゆり組で遊んできたことを年長組でも続けていき、園全体での遊びに発展させていきたい。